

環境のあゆみ
2015

ダイジェスト

P 1. 「ダイジェスト」「環境のあゆみ 2015 報告にあたり」

P 2. 「会社概要」「事業所一覧」

P 3. 「経営者ご挨拶」「経営理念」

P 4. 「環境方針」「環境マネジメントシステムの概要」

メロディアン環境マネジメントシステム運用組織図を掲載しています。
組織図には ISO14001 認証取得組織と認証取得外組織を色分けして識別しています。

P 5. 「環境目的・環境目標の達成状況」

2014年度(2014年4月1日～2015年3月31日)の環境目標への取り組みに対する達成状況の評価結果と、その結果に対する解説を掲載しています。

P 5. 「GHG(温室効果ガス)排出量の推移(2012年～2014年)」

過去3年間のGHG排出量の推移グラフを掲載しています。
2013年度と2014年度比較で約5%のGHG排出量抑制ができました。

P 6. 「物流モーダルシフトへの取り組み」

当社が現在進めているモーダルシフト(貨物の輸送をトラック輸送から大量輸送可能な鉄道への転換)について、その背景と取り組み状況などを写真と共に掲載しています。

P 7. 「三重工場省エネ活動への取り組み」

各部門、様々な省エネ活動に取り組んでおります。三重工場では省エネルギー推進委員会の元、様々な効果を生んだ活動を掲載しています。

P 8. 「排水処理の管理状況(三重工場)」

三重工場の排水処理設備から河川へ放流される処理水の管理状況について、毎月の測定結果を掲載しています。

P 8. 「高山植物保護活動の支援」

1992年(平成4年)の日本高山植物保護協会へ法人会員として入会以来、メロディアンは高山植物保護活動を通じて環境保全活動に対する啓蒙活動を継続してきました。2014年度の活動報告、高山植物観察写真を掲載しています。

環境のあゆみ2015作成にあたり

この環境レポート「環境のあゆみ」は、環境保全活動の報告を主な目的とし、2002年度(平成14年度)より一般の方々へ公開しております。

また、紙資源保護を目的に Web での公開を基本とし、冊子による配布を最小限に抑えておりますのでご理解いただきたく存じます。冊子ご希望の場合は当社ホームページよりダウンロードしてご利用ください。

作成単位を極少化するために社内作成しておりますので、印刷インクや用紙など素材面での対応が十分出来かねている現状ではございますが、重ねてご理解いただきたく存じます。

今回の「環境のあゆみ 2015」の報告対象期間は 2014 年度(2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日)の活動内容と結果を基本としておりますが、一部報告には 2015 年度の計画を含んでいます。

活動範囲は主にメロディアン株式会社(全事業所)と株式会社メロディアンメンテの環境保全活動です。

昨年発行の「環境のあゆみ 2014」に対する貴重なご意見・ご感想をお寄せ頂きありがとうございました。

読者の皆様の貴重な声を今後も環境保全活動と報告書作成に活用させて頂きたく、今回も簡単なアンケートをご用意いたしましたので、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せ下さい。

(発行担当：環境対策委員会 事務局)

会社概要

- [創 業] 昭和33年12月6日 [設 立] 昭和36年9月20日
 [従 業 員 数] 280名 (2015年4月現在) [資 本 金] 9,850万円
 [事 業 内 容] コーヒーフレッシュ、シロップ、美と健康飲料、およびデザート等の食品製造販売、化粧品製造販売
 [関 連 会 社] 株式会社メロディアンメンテ、株式会社メロディアンハーモニーファイン、六甲牛乳株式会社

沿 革

- 昭和33年12月 大阪府八尾市に日興乳業創業
 昭和36年 9月 日興乳業株式会社を資本金100万円で法人設立
 昭和49年 9月 資本金2,000万円に増資
 昭和54年 5月 東京営業所開設 (現:東日本事業所)
 昭和55年 6月 広島営業所・福岡営業所 (現:九州営業所) 開設
 昭和61年11月 三重上野工場建設 敷地面積1万坪40億円投資
 平成 元年 3月 高松営業所開設 (現:四国営業所)
 6月 メロディアン株式会社に社名変更
 平成 2年 4月 国際花と緑の博覧会「MELODIAN LAND」出展
 平成 3年 1月 環境対策委員会を発足
 平成 4年 4月 『環境対策委員会のあゆみ』 (現:環境のあゆみ) を発刊
 10月 株式会社メロディアンメンテ設立
 11月 『日本高山植物保護協会(JAFPA)』へ法人入会と関西支部設立に協力
 12月 資本金9,800万円に増資
 平成 5年 3月 高山植物保護キャンペーン『高山植物いろいろプレゼント』を実施
 社用車のディーゼルエンジン車からガソリンエンジン車への全面切替を決定 (NOx対策)
 平成 6年 6月 三重上野工場排水処理設備の増設
 平成 7年 5月 当社社員より『日本高山植物保護協会(JAFPA)』の理事へ就任
 平成 8年 5月 三重上野工場へ高温度焼却炉を設置 (ダイオキシン対策)
 平成10年 3月 社用車のガソリンエンジン車輻への全面切替完了と低公害車導入の決定
 12月 三重上野工場がISO9002の認証を取得
 平成12年 1月 ISO14001を全社一斉認証取得
 平成13年 4月 近畿事業所・名古屋営業所 (現:中部営業所) 開設
 10月 認証取得範囲を企画開発部門まで拡大しISO9001へ更新
 11月 三重上野工場の焼却炉運転の全面停止 (平成14年3月撤去)
 平成14年 1月 三重上野工場から埋め立て処分場へ直接排出される廃棄物の撲滅達成
 2月 三重上野工場排水処理施設へ膜濾過設備を導入
 12月 三重上野工場にてHACCP認証取得
 平成16年 4月 岡山営業所開設
 11月 三重上野工場を三重工場へ名称変更 (市町村合併に伴う変更)
 平成17年 1月 社用車へハイブリッド車の導入を開始
 11月 株式会社メロディアンハーモニーファイン設立
 平成18年 4月 四国営業所を岡山営業所へ統合し中四国営業所を開設
 平成19年 3月 三重工場へ中身入ポーション破碎分別設備を導入
 10月 研究所開設
 平成20年 4月 ISO14001 認証取得範囲から営業部、特販部、開発営業部を除外し、当社環境マネジメントシステムの準適用組織とした
 平成21年 4月 広島営業所を中四国営業所へ統合
 平成22年 2月 三重工場へLPG仕様のボイラー設備を導入
 平成27年 2月 製造委託先との業務提携にて名古屋工場にてポーション製品の生産開始

事業所一覧

- | | | |
|-----------|---|------------------------|
| 本 社 | 〒581-0833 大阪府八尾市旭ヶ丘 1-33 | Tel: 072-999-3250 (代表) |
| 研 究 所 | 〒581-0869 大阪府八尾市桜ヶ丘 2-128-1 | Tel: 072-924-3215 (代表) |
| 東日本事業所 | 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 4-29-4 (西新宿ミノシマビル3F) | Tel: 03-5371-3637 (代表) |
| 近 畿 事 業 所 | 〒532-0003 大阪市淀川区宮原 5-1-18 (新大阪第27松屋ビル10F) | Tel: 06-6150-3277 (代表) |
| 中 部 営 業 所 | 〒450-0002 名古屋市中村区名駅 4-2-7 (丸森パークビル5F) | Tel: 052-587-5150 |
| 中四国営業所 | 〒700-0907 岡山市北区下石井 1-1-3 (日本生命岡山第2ビル5F) | Tel: 086-235-3826 |
| 九 州 営 業 所 | 〒812-0014 福岡市博多区比恵町 1-30 (サンいずみビル 3F) | Tel: 092-474-4227 |
| 三 重 工 場 | 〒518-1151 三重県伊賀市白檜 2816-6 | Tel: 0595-20-2000 (代表) |

ご挨拶

私たちメロディアングループは昭和 33 年に牛乳会社として創業して以来、豊かな食文化の創造を目指し、「美と健康」、「おいしさはしあわせ」をテーマに、無菌充填包装技術を活かしたコーヒーフレッシュ、ポーションシロップそして飲料など、ロングライフ商品を中心とした商品開発、製造販売を実施して参りました。



さて、昨今の食品企業における不祥事や異物混入クレームの多発によりお客様の安心安全またコンプライアンスに対する意識が更に高まってきております。お客様に信頼される商品を提供していく為に、企業としてより一層安心安全、コンプライアンスに対する真摯な取り組みが必要になっております。また企業を取り巻く環境も原材料における為替の円安による負担増、物流環境の変化による配送ルートの見直し、国内における少子高齢化による人材不足など一層変化が激しくなってきました。当社として「環境と経営の一体化」を基本に、マネジメントシステムを活用した無駄のない環境づくりを推進し、さらなる省エネ活動、効率化生産体制を構築して参りたいと考えております。また甚だ微力ではございますが、20 年以上続けて参りました日本高山植物保護協会への支援も引き続きして実施して参ります。

今後も企業の使命として、環境への配慮、社会貢献を念頭に、当社の社是であります「信頼される人間、信頼される商品、信頼される企業」を目指し、企業活動を実施していきたいと考えております。引き続き御指導、御支援、何卒宜しくお願い申し上げます。

2015 年 6 月 代表取締役 社長 中西 優紀雄

経営理念

【経営理念】

— 社 是 —

1. 信頼される人間になろう。
1. 信頼される商品を作ろう。
1. 信頼される企業になろう。

— 基本方針 —

当社は、豊かな食文化の創造をめざし、真実と信頼の経営を展開して、顧客、取引先ならびに社員の繁栄と幸福に最大限寄与することにあり、以下の5項目を基本方針とします。

- 一、信頼される商品の提供、および誠実かつ積極的な社員の人間形成を通して、企業の信頼性を向上させます。
- 一、市場環境の変化に対応した着実な規模の拡大と、経営管理システムを強化・徹底して、収益構造を強化します。
- 一、顧客第一主義にもとづいた、『おいしさはしあわせ』『美と健康』をテーマに創造性豊かな新製品の開発を目指すとともに新市場開拓をより一層推進します。
- 一、法令遵守を基本に、環境保全にも積極的に取り組み、広く社会や顧客に支持される企業づくりを目指します。
- 一、働き甲斐の創造につながる、明朗かつ風通しのよい職場環境づくりを推進します。

環境方針

環境方針

1. 基本理念

当社は、高山植物保護活動をはじめとして、地球環境の保全に積極的に取り組み、社会や顧客から支持される企業作りを目指し、「物を大切に」「資源を大切に」「自然を大切に」を基本に、環境負荷の低減を図ります。

2. 基本方針

- 1) ISO14001 に基づく環境管理システムの構築を行い、外部取引先様と共に環境保全活動を推進し、環境汚染の防止と環境負荷低減の継続的改善を図ります。
- 2) 環境関連法規制、地域との協定などの順守と、これらの管理基準を整備し、管理状態の維持・向上を図ります。
- 3) 環境保全活動の目的・目標を定め、これを定期的に見直すと共に、その達成を図ります。
- 4) 無駄の排除・抑制及びリサイクルなどによる、資源の有効活用を図ります。
- 5) 電力・燃料など、エネルギーの効率的利用を推進し地球温暖化防止を図ります。
- 6) 従業員への教育、社内広報活動などを実施し、全ての従業員に対して、環境方針の周知及び環境に関する意識の向上を図ります。
- 7) この環境方針を社外へも公開し、達成を図ります。

平成21年4月1日
メロディアン株式会社
株式会社メロディアンメンテ
代表取締役社長 中西 優紀雄

環境マネジメントシステムの概要と運用状況

社長が責任者(環境管理責任者が副責任者)として経営会議を毎月1回開催しています。

この会議には、各部門の責任者をはじめ各部門の担当取締役も参加し、必要に応じて随時、年度目標の達成状況の確認や、環境情報の共有化を図ると共に、環境保全に関する重要事項の審議・決定を行っています。

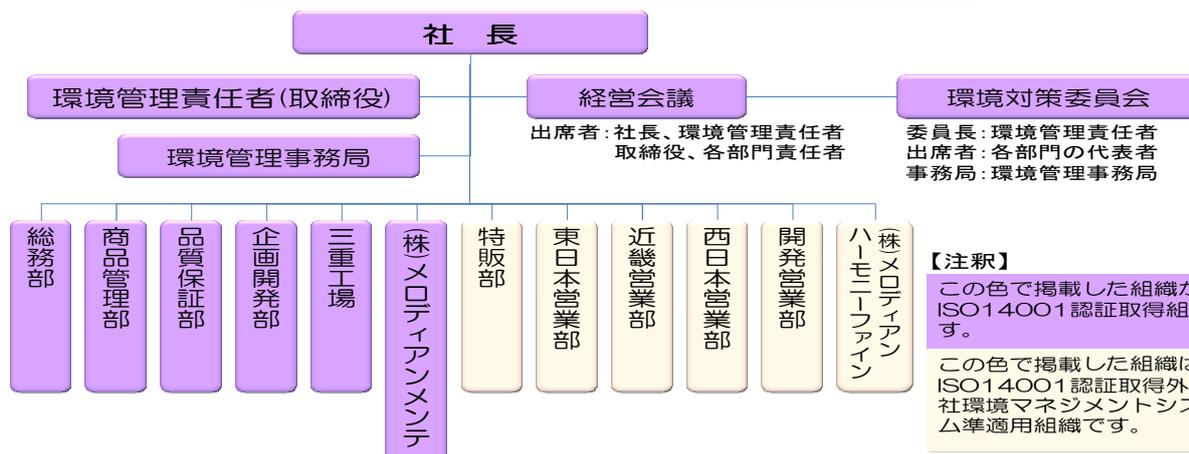
また、経営会議の直下には環境管理責任者が委員長をつとめる環境対策委員会を設置し、経営会議へ上申するための実務レベルの協議、ならびに内部監査のための打合せなどを実施しています。

当社は2000年(平成12年)1月に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001(JISQ14001)を全社全事業所一括で認証取得して以来、年1回以上の内部環境監査と外部の第三者審査機関による審査を実施し、ゆっくりとした歩みではありますが、着実に環境マネジメントシステムの維持向上に努めて参りました。(現在の認証取得範囲は「環境マネジメントシステム組織図」をご参照下さい。)

2014年度も、社内の資格認定基準を満たした内部環境監査員により全社の認証取得範囲を対象に内部監査を実施した結果、計5件の指摘と共に「是正要求書」が発行されています。これらの指摘事項は全て該当部署による是正処置が実施され、内部監査員による確認まで完了しています。

また、外部審査機関による更新審査では、不適合には至らないものの放置すると不適合に至る可能性がある観察事項として、計7件の指摘をいただきましたので、現状の環境マネジメントシステムを改善できる機会と捉えて、各関連部署を中心に必要な見直しを実施しています。

環境マネジメントシステム組織図



環境目的・目標の達成状況

2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）の目的・目標に対する達成状況は下表の通りです。

取り組み結果評価のマーク		
良くできた	ほぼできた	もう少し
		

環境目的	2014年度の目標	結果評価	解説
すべての品質向上を目指す	外注支給原材料クレーム件数低減		残念ながら、僅かに昨年を上回る結果となりました。今後も引き続き、改善に向けた取り組みを継続して参ります。
	物流破損比率の低減		物流経路の見直しなどの取り組みで、物流破損比率の低減が図れました。
	不適合品発生件数の抑制		目標は未達成ながらも、昨年対比で改善することができました。
環境マネジメントシステムを活用した無駄の無い環境づくりの推進	事務業務ミス低減		ミス予防の取り組みにより受注ミス件数は過去最良の件数を達成することができました。
	環境データの継続把握		継続的に把握できました。
	商品さばき販売、サンプル処理の発生抑制		さばき販売につながる長期滞留在庫の低減を図ることで、昨年に続き目標達成することができました。
	グリーン販促物購入比率の維持		70%以上維持し達成することができました。引き続き推進して参ります。
	自社工場エネルギー単位の低減		昨年に引き続き、目標を達成することができました。2015年度も引き続き省エネ図って参ります。

温室効果ガス排出量の推移（2012～2014年）

事業活動に伴う温室効果ガス（GHG）の排出量を低減してきましたが、生産量の増加等により、2012年度と2013年度比較で約17%の排出量増加となっていました。2014年度は更に生産量は増加したものの、三重工場の隔週連続生産などの効率化により、GHG排出量は前年対比で約5%の削減ができました。



物流モーダルシフトの取り組み

モーダルシフトとは、貨物の輸送をトラック輸送から大量輸送可能な鉄道や海運に転換することを意味します。鉄道コンテナ輸送は、輸送量あたりのエネルギー消費量も少なく、トラック輸送と比較するとCO2の排出量も少ない為、環境への負荷も少ない輸送手段と言えます。

当社は、『環境負荷の低減』に加え、近年の国内物流事情（ドライバー不足）も踏まえた、『輸送手段の確保』を目的とし、2013年10月より鉄道コンテナ輸送をスタートしました。当初は、月間10個（12フィートコンテナ換算）にも満たない状況でしたが、徐々に個数を増やし、2014年度は年間約700個（約50万ケース）の鉄道コンテナ輸送を実施しています。



【当社三重工場での積み込み】



【発駅より各方面向けの貨車に載り出発】



【納品先様近辺の着駅に向けて鉄道輸送】



【着駅に到着後、納品先様へ向けて出発】



【隙間を埋める為にエアバッグを活用】

鉄道コンテナ輸送の場合、トラックほど荷物を固定することができない為、積み込み時にコンテナ内に生じる隙間をどのように埋めて荷物を固定させるかが、重要となります。

商品破損が発生すると、お客様にご迷惑をお掛けするだけでなく、商品廃棄や代品をお届けする際の別便発生（新たなCO2排出）など、環境面でも負荷がかかります。

当社は、鉄道コンテナ輸送での商品破損を低減させる為に、コンテナ内での商品の積み方の研究や、エアバッグを活用した荷崩れ防止策など、輸送品質向上に向けた取り組みを行っています。

今後、ドライバー不足は更に深刻な状況となります。当社としても長距離輸送を中心にモーダルシフトを更に拡大すべく、鉄道コンテナ輸送への取り組みをより一層強化して参ります。

三重工場の省エネルギー活動

三重工場では、省エネルギー推進委員会を設けて継続的な省エネルギーへの取り組みを実施しています。2014年度の取り組みについて、その一部をご紹介します。

蒸気配管への保温材設置

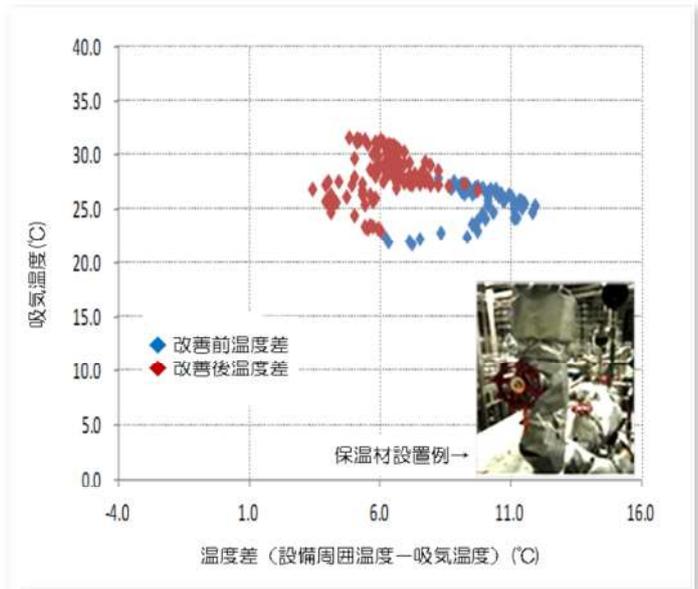
当社商品特性のひとつである無菌充填包装の生産工程では、内容物や送液配管等の加熱殺菌に蒸気を多く使用します。

その蒸気配管や殺菌器からの放熱を抑えることで熱効率を上げると共に、作業環境の室温上昇も抑えることで、省エネルギーと作業環境改善の両側面の効果を得る取り組みを実施しました。

右のグラフの青色は改善前、赤色が改善後の外気温と設備周辺の温度差を表しています。

赤色の方が青色に比べて、温度差が小さくなっています。

これは、設備からの無駄な放熱が抑えられたことで、外気を取り込む吸気温度との差が縮まった結果です。



高天井照明のLED化

2014年度は調合工程と充填工程の製造現場の高天井用照明を、従来の水銀灯からLED照明へ変更しました。

この取り組みは、変更前と比較して明るさが増す反面、長寿命化と共に省エネルギー化も図ることができる対策として照明設備更新に合わせて、計画的に展開しています。

(右の写真をご参照ください。)



空調設備の運用見直し

包装工程の排気ファンハッチャターを設置したり、冷暖房機器の使用方法を間引き運転へ変更したり、空調設備の運用を総合的に見直すことで、電力使用量の抑制を図っています。

2014年の秋に実施対策が完了したので、2015年の夏場から、より効果が出てくるものと予測しています。

排水処理設備の汚泥脱水機の更新

長期間使用してきた汚泥脱水機の更新に合わせて、従来の布で濾過する方式から、スクリーンで圧搾する方式へ機種変更を行い、排出される汚泥の含水率を下げることで廃棄物排出量を削減すると共に、脱水機自体の運転エネルギーやメンテナンスの面でも、環境負荷の低い機種選定を実施しました。

三重工場では、2015年度も引き続き省エネルギー推進委員会を中心に、これらの取り組みを実施していく計画です。

排水処理の管理状況 (三重工場)

三重工場の生産ラインから排出される排水の管理状況は、昨年の報告以降も下表の通り、関連する法規制の基準値を下回って問題なく推移しています。 単位：mg/L (但し、水素イオン濃度は単位なし、大腸菌群数は個/ml)

測定項目(基準値)	測定サンプル採取日(月/日)と測定結果											
	4/8	5/13	6/5	7/18	8/5	9/4	10/7	11/6	12/4	1/8	2/5	3/5
水素イオン濃度 (5.8~8.6)	7.2	7.7	7.6	7.4	7.7	7.5	7.2	7.4	7.5	7.1	7.4	7.7
生物化学的酸素要求量 (25 以下)	2.3	2.1	2.0	2.8	2.5	2.0	2.3	2.3	2.5	3.3	2.7	2.9
化学的酸素要求量 (なし)	7.5	9.3	8.8	6.9	7.9	8.9	8.6	10.0	13.5	14.0	9.9	8.7
浮遊物質 (90 以下) *	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
カルシウム抽出物質 (30 以下) *	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
全窒素 (120 以下)	28.8	22.2	12.9	22.1	18.6	15.2	15.0	24.8	4.2	2.0	4.1	4.8
全リン (16 以下)	0.66	0.54	0.49	0.93	0.82	0.59	0.66	0.64	0.63	0.17	0.20	0.66
大腸菌群数(3000 以下) *	(-)	(-)	1	1	(-)	(-)	(-)	(-)	32	(-)	(-)	(-)
鉄 (10 以下)	0.2	0.9	1.4	0.9	0.9	1.4	0.9	1.6	2.1	2.1	1.5	1.4
マンガン (10 以下) *	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
亜鉛 (2 以下)	【年1回測定項目】 0.1 (2015年3月採取)											
基準適合判定	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合

【解説】 基準値末尾に*印の測定結果は測定限界値以下のため測定下限値を記載、但し大腸菌群数は陰性を示す(-)を記載

日本高山植物保護協会

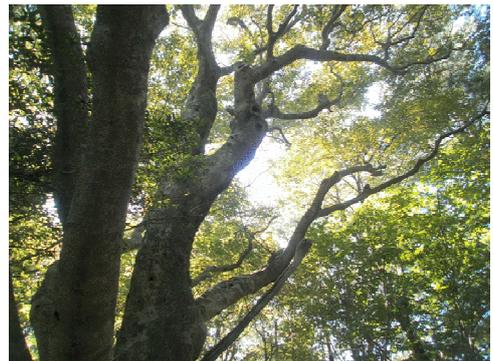
メロディアンは、1992年(平成4年)に法人会員として入会して以来、特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会(通称：JAFPA/ジャフパ)を応援しています。

特にメロディアン・ミニの高山植物デザイン採用や、メロディアン本社が関西圏にあることから、JAFPA 関西支部設立のお手伝いも参加させて頂いたご縁もあり、単に法人会員として入会し、経済的な支援に留まるのではなく、入会当初から関西支部の幹事として社員を派遣させて頂き、また従業員の多くも個人会員として参加させて頂くなど、共に高山植物を通じて自然環境の大切さと環境保全への啓蒙活動に参加させて頂いています。

2014年度は「伊吹山・夏の観察山行」が実施され、多くの高山植物に触れる機会になり、大変有意義な活動になりました。より一層の高山植物への関心が高まったかと考えております。なお伊吹山山頂美化活動につきましても、例年通り関西支部役員に参加いただき、山頂遊歩道の保護策補修作業や清掃美化活動を実施いただきました。また環境学習会では、和泉葛城山の天然記念物であるブナ林を散策し、苗木を移植するためのヒノキの間伐体験をさせていただきました。

【JAFPA ホームページ】 <http://www.jafpa.gr.jp/>

和泉葛城山 ブナ林



和泉葛城山ブナ林(天然記念物)

大正12年、天然記念物に指定される。ブナ群生の南限でも知られる。

伊吹山の花



コオニユリ

ユリ科、日当たりの良い適湿な山地に生える。



カワラナデシコ

日当たりの良い草地に自生する多年草。

